

7・8・9
月



ボールが使いたくて、最初は「かして、かして」と取り合っていた2人でしたが、2人でも使えることを見せると、先程までの取り合いはどこへやら。「こっちだよ～」と声を掛け合いながら遊ぶ姿がありました

園長：あそびの中に見つけていく簡単なまじりのようなものが楽しさをふくらませていく体験になっているようにみえますね。



一人がバスごっこを始めたら、ひとり、ふたり、またひとり…と集まってきました。同じ遊びをしたがる姿も多いですね。はるきくんは運転手さん役のようです！そんな風に、イメージの世界の広がりも感じられます。



園長：自立の道は、自立と依存のバランスのなかにひかれていくことがよく分かります。



お友だちのお手伝いをしたがる姿も増えました。「やってあげる」と「やってもらう」お互いの気持ちに通ってこそその関わりでもあります。

お互いにお友だちの水筒をバッチリ覚えていて、のもとにその子持って行って飲ませてあげる姿がたくさんありました。



園長：赤ちゃんの頃から、日々の安心したかかわりや、大人とのあたたかなやり取りの中で、他者への共感や優しさが育ってきました。



ちっち組のお友だちを気にかけたり、そっと関わってみたりする姿も。



「きょうかちゃん。お外みえるよ。」
「わかちゃんだよ、わかちゃん。」
「ここ、つるつるだよ。」…と、やさしく話しかけるわかちゃん。



悲しそうにしている姿を見ると、「だいじょうぶだよ」というふうに、いいこいいこ…。

ちっちさんがミルクを飲んでいると、一緒に哺乳瓶を支えたり、よしよししたり、そっと関わる姿もあります。



2期まとめ

この3か月の育ちを振り返ると、ちっちさんへのやさしい気持ちや思いやりの姿がたくさん表れていたなあと感じます。相手の目線になって、そっと寄り添ってみようとする感覚が、このちいさなぐんぐんさんたちにもしっかり芽生えているのだなあと思うと感動しますね。

かわいいな、という気持ちや小さなお友達への興味からおもいやりの気持ちが生まれていることがいろいろな場所で見られましたね、ステキです♡

